

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年5月16日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから5月16日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

あしたの委員会の定例会は、予定どおり10時半から開催できる見込みです。

議題は5つあります。

1つ目が、京都大学の研究用原子炉の審査結果の取りまとめということで、標準応答スペクトルの件になります。

震源を特定せず策定する地震動により基準地震動が追加になったので、承認申請が出ていたものです。その審査結果の取りまとめを諮るという案件です。

議題の2つ目が、柏崎刈羽原子力発電所の追加検査の状況と今後の対応ということで、追加検査の結果を取りまとめるとともに、今後の対応方針を諮るというものになります。

残された課題があるために、追加検査はフェーズⅢとして継続するという方針を諮ることになります。

議題の3つ目ですけれども、デジタル安全保護系の共通要因故障対策の状況と今後の対応ということで、この件については、2年前の委員会で規制要求してバックフィットするというのではなくて、事業者の取組を規制委員会がフォローアップするという仕組みにするということを決めていたものです。

その後、事業者の取組が進んできましたので、今年2月と3月に事業者から検討チームで報告がありまして、それを委員会に報告するというものになります。

議題の4つ目です。

令和4年度第4四半期の原子力規制検査の結果ということで、これは定例の四半期ごとの検査結果の報告ということになります。検査指摘事項が5件あったことなどが報告されます。いずれも重要度・深刻度は最も低いレベルのものということになります。

議題の5つ目ですけれども、原子力国際規制アドバイザーとの意見交換会合の結果概要ということで、国際アドバイザーというのは、海外の規制機関のトップなどの有識者を委嘱しまして、年2回意見交換を行っているもので、5月9日に行われましたけれども、も、そのときの結果、議題は高経年化への対応でしたが、その結果を報告するというものになります。

あしたは夕方に非公開の臨時会議もあります。

議題は、先ほどの議題の4つ目の、第4四半期の検査結果の報告の核物質防護版ということで、こちらは検査指摘事項が4件あったことなどが報告されます。

次が、3ページ、5月22日の(9)、1F(福島第一原子力発電所)の廃炉事故調査の連絡調整会議ということで、これは廃炉と作業と事故調査の情報共有などを目的に、規制庁とエネ庁と東電などで年2回ほどやっている会議ですけれども、今回は、議題2から4にあるような廃炉作業と事故調査の間で調整が必要な事項について情報共有を行うということになります。

説明は以上です。

#### <質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。

ありがとうございました。

—了—